

ヒヤリハット体験調査結果詳細 ‹‹刈払い機››

項目	ヒヤリハット内容	(割合)	事故を防ぐための改善策
1	刈払機を運ぶ際や点検時に、不意に刈刃に触れてしまった。	12%	<ul style="list-style-type: none"> 作業をしないときは刈刃カバーを付ける。 刃が当たっても怪我をしないよう、長袖・長ズボン・軍手等で作業する。 点検等に適切な用具（ボックスレンチ等）を使用する。 点検は、作業に適した明るさのある場所で、刈払機を安定して設置した状態で行う。
2	エンジンをかけただけで刈刃が回り出した。	37%	<ul style="list-style-type: none"> 刈刃の回りに障害物がないことを確認する。 飛散物防護カバーが適切な位置に付いているか確認する。 トリガー式スロットルの刈払機を使用する。（固定式スロットルレバーの場合は、最低回転に戻した状態で始動する） 始動時に刈刃が回り始めないよう、ワイヤの張りを定期的に調節する。 刈刃が地面に触れていないことを確認してから始動する。
3	つい保護めがね、すねあてなどの安全保護具を着けずに（外して）作業をしてしまった。	77%	<ul style="list-style-type: none"> 石などの飛散物が当たっても怪我をしないよう、長袖・長ズボン・軍手等で作業する。 保護めがね、フェイスシールド、ヘルメット、すねあて、安全靴等の安全保護具を必ず装着することを徹底する。 刈払機と安全装備をセットで保管するなど工夫する。
4	草が詰まりやすいので、飛散物防護カバーをずらした、外した。	30%	<ul style="list-style-type: none"> 使用前点検を徹底し、飛散物防護カバーを適切な位置に付ける。 正しい刈り払い位置で作業をすることで詰まりを減らすことができるので、説明書を再度読む。（刈刃は左前1/3を使用する。刃の右側で刈るとキックバックの可能性が高く危険。刃の左側全体で刈ると負荷が大きく回転が下がったり詰まりやすくなるため、結果的に効率も下がる。） 濡れた草を刈ると詰まりやすいので、雨上がりや露のついている時は草刈りしない。 草丈が長すぎると詰まりやすいので、草が繁茂しすぎる前にこまめに草刈りをする。
5	長時間を作業をしていて、握力がなくなったり、音が聞こえにくくなった。	16%	<ul style="list-style-type: none"> 振動による健康障害を防止するため、1日に2時間以上刈払作業をしない。（2時間未満の作業でも、作業後半日経っても音が聞こえにくいままであれば医療機関に行くこと） 防振グローブやイヤーマフ、耳栓を使用する。 低振動・低騒音の刈払機を使用する。 刈刃を定期的に確認し、欠けやヒビの入ったものは使用しない。（欠けやヒビがあると振動が大きくなる）
6	刈払い作業をしている場所に石や空き缶などが落ちていたが、そのまま取り除かず作業を続けた。	51%	<ul style="list-style-type: none"> 作業予定場所は必ず下見し、空き缶などの障害物は作業前に取り除く。 溝や切り株など移動できない障害物がある場合は、障害物があることがわかるよう、棒などの目印を立てる。 飛散物防護カバーを付ける。 正しい服装（長袖長ズボン）で、安全保護具を着ける。 周囲に他の人を近づけないようにする。
7	刈刃に草がからまったので、エンジンを切らずに草を取り除こうとしたら、急に刈刃が回り出した。	0%	<ul style="list-style-type: none"> 動力が繋がった状態で詰まりを取り除くと、取れた途端に刈刃が動くので、刈刃が地面に触れていないことを確認してから始動する。 トリガー式スロットルの刈払機を使用する。（固定式スロットルレバーの場合は、あらかじめ最低回転に戻す） 濡れた草を刈ると詰まりやすいので、雨上がりや露のついている時は草刈りしない。 草丈が長すぎると詰まりやすいので、草が繁茂しすぎる前にこまめに草刈りをする。
8	刈刃を地面につけたままエンジンを始動したら、刈払機が思わぬ方向に移動した。	9%	<ul style="list-style-type: none"> 刈刃が地面に触れていないことを確認してから始動する。 トリガー式スロットルの刈払機を使用する。（固定式スロットルレバーの場合は、最低回転に戻した状態で始動する） 飛散物防護カバーを適切な位置に着ける。 正しい服装（長袖長ズボン）で、安全保護具を着ける。
9	エンジンをかけたまま地面に置いておいたら、刈刃が回っていたり、振動で機体が動いた。	23%	<ul style="list-style-type: none"> エンジンの振動で機体が動くので、地面に置くときはエンジンを切る。

ヒヤリハット体験調査結果詳細 ‹‹刈払い機››

項目	ヒヤリハット内容	(割合)	事故を防ぐための改善策
10	傾斜が大きい、地面が濡れていたなどで足元が悪く、滑りそうになった。	74%	<ul style="list-style-type: none"> ・雨上がりや露の残る時間は滑りやすいので草刈りしない。 ・滑りにくい靴や後付けのスパイクなどを着ける。 ・傾斜がきつい場所は、小段を設けるなど安全に作業できるような環境整備を検討する。
11	足元のへこみや石などに気付かず、足を取られて転びそうになった。	42%	<ul style="list-style-type: none"> ・作業予定場所は必ず下見し、可能な場合は修繕を行う（へこみを埋めるなど）。 ・除去や修繕ができない凹凸や障害物がある場合は、そこに危険があることがわかるよう、棒などの目印を立てる。
12	刈刃が石や水面に当たり、刈払機が思わぬ方向に跳ねた。	51%	<ul style="list-style-type: none"> ・作業予定場所は必ず下見し、空き缶などの移動できる障害物は作業前に取り除く。 ・溝や切り株など移動できない障害物がある場合は、障害物があることがわかるよう、棒などの目印を立てる。 ・正しい服装（長袖長ズボン）で、安全保護具を着ける。 ・固い地面に当たると刈刃が跳ね返る、石などが飛散するなどの可能性があるため、地際ぎりぎりまでは作業しない。（地際まで作業をしても、1年の刈払作業回数はかわらない） ・水であっても回転数の高い刈刃が当たったときの跳ね返りは、固い地面に当たった時と同様に大きいので、水面ぎりぎりまで作業しない。 ・水面が見えなくなるほど草が繁茂する前に草刈りをする。 ・正しい作業方法を徹底する（刃の右側で刈るとキックバックしやすい）。 ・キックバックが生じたらエンジンが止まる刈払機、トリガー式スロットルの刈払機など、安全性の高い刈払機を使用する。（固定式スロットルの刈払機を使用しない。）
13	刈刃が地面や石などに当たってキックバックし、足を切りそうになった、はずみで転びそうになった。	7%	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい作業方法を徹底する（刃の右側で刈るとキックバックしやすい）。 ・正しい服装（長袖長ズボン）で、安全保護具を着ける。 ・キックバックが生じたらエンジンが止まる刈払機、トリガー式スロットルの刈払機など、安全性の高い刈払機を使用する。（固定式スロットルの刈払機を使用しない）
14	共同での草刈作業中、刈払機で跳ねた石が飛んできて（又は飛ばして）怪我をした、しそうになった。	5%	<ul style="list-style-type: none"> ・作業予定場所は必ず下見し、空き缶などの移動できる障害物は作業前に取り除く。 ・飛散物防護カバーを適切な位置に付ける。 ・正しい服装（長袖長ズボン）で、安全保護具を着ける。 ・人が近づかないよう、作業中であることを知らせる表示板やコーンを立てておく。 ・組作業をするときは、上下に配置せず、相手との距離を充分とれるように作業手順を事前に決めておく。
15	人に呼ばれて振り向いた時に、刈払機を相手に向けていた。	7%	<ul style="list-style-type: none"> ・他者からの呼びかけで振り返るときは、エンジンを切るか、アイドルに戻して刈刃の回転が止まってからにする。 ・作業者に呼びかける時は、長い棒、笛、鏡などで行い、方法を事前に決めておく。 ・組作業をするときは、上下に配置せず、相手との距離を充分とれるように作業手順を事前に決めておく。
16	古い刈刃で切りにくいため、エンジンの回転数を上げて作業した。	28%	<ul style="list-style-type: none"> ・刈刃の切断力が低下しているため、刈刃を交換する。 （無理にエンジンの回転数を上げて、負荷が大きくなり刈払機の故障原因となったり、キックバック・飛散物があった場合に危険）
17	刈払い作業は、草の地際で刈るようにしている。	35%	<ul style="list-style-type: none"> ・固い地面に当たると刈刃が跳ね返る、石などが飛散するなどの可能性があるため、地際ぎりぎりまでは作業しない。（地際まで作業をしても、1年の刈払作業回数はかわらない） ・飛散物防護カバーを適切な位置に着ける。 ・正しい服装（長袖長ズボン）で、安全保護具を着ける。
18	のり面の上側などを刈る時に、刈払機の刃を腰より上に上げて切ることがある。	72%	<ul style="list-style-type: none"> ・傾斜が長い場所は、小段を設けるなど安全に作業できるような環境整備を検討する。 ・高い位置で刈払機を操作するとバランスを崩しやすく、キックバックや飛散物があった際に危険なので、説明書を再度読み、安全な体勢で作業を行う。 ・飛散物防護カバーを適切な位置に付ける。 ・正しい服装（長袖長ズボン）で、安全保護具を着ける。

